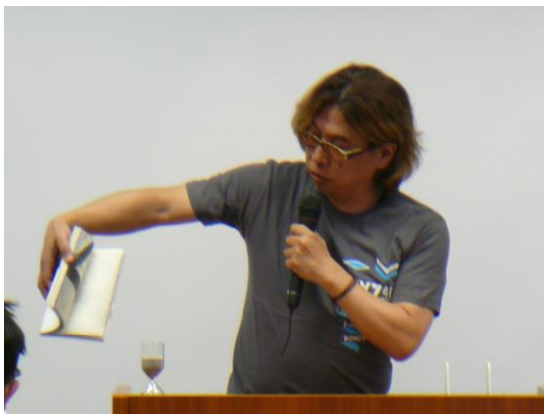


平成29年度第5回大人のためのブックトークを開催しました

平成30年1月20日(土)、今年度5回目の「大人のためのブックトーク」を開催しました。当日は小林先生の前に行われた渡辺司書による本の紹介を受け、それに関連した作家や本の紹介も即興で行われるなど、ライブ感の溢れる会になりました。

小林昌廣 IAMAS 教授によるブックトーク



＜当日紹介された本＞

「翻訳できない世界のことば」

エラ・フランシス・サンダース著 前田まゆみ訳
創元社 (2016年)

マレー語にはバナナを食べる所要時間、フィンランド語にはトナカイが休憩なしに移動できる距離などを表す言葉があるをご存じでしたか？ 日本語の木漏れ日やわびさびといった言葉も含め、世界にはその国ならではの独特な表現があることを、文字とイラストで伝える一冊。

「Wabi-Sabi わびさびを読み解く

for Artists, Designers,
Poets & Philosophers」

レナード・コーレン著 内藤ゆき子訳
ビー・エヌ・エヌ新社 (2014年)

大人のためのブックトーク、今回最初の紹介本では、翻訳できないとされた「わびさび」。この言葉について、日本のファッションに関する本や「日本のお風呂の入り方」など、日本文化にまつわる本を多く書いてきたアメリカ人の著者が西洋文化と比較して分析していく一冊。

「西東三鬼全句集」

西東三鬼 角川ソフィア文庫 (2017年)

『水枕ガバリと寒い海がある』『算術の少年しのび泣けり夏』などを代表作に持つ俳人、西東三鬼。歯科医師として働く中、患者から勧められて俳句の世界に入った三鬼は、旧来からの俳句ではなく、新興俳句を推進し、季語の無い句も多く生み出した。

三鬼が生涯に詠んだ全句と自句自解も掲載された一冊。

岐阜県図書館 渡辺沙羅司書によるおすすめ本の紹介



「ファストファッション

クローゼットの中の憂鬱」

エリザベス・L. クライン著 鈴木素子訳

春秋社（2014年）

「おじいさんならできる」

フィービ・ギルマン作・絵 芦田ルリ訳

福音館書店（1998年）

「箸はすごい」

エドワード・ワン著 仙名紀訳 柏書房（2016年）

「地球家族 世界30か国のふつうの暮らし」

マテリアル・ワールドプロジェクト著

近藤真理・杉山良男訳 TOTO出版（1994年）

○感想等

- ・お話が笑いを含めて知識があふれていてとてもおもしろかったです。先生が早口なので私は頭を必死に動かして理解しようと思いました（笑）
- ・読んでみたい本の幅が広がります。大変に良い企画であると思います。
- ・西東三鬼全句集の評が特に面白かった。ぜひ読んでみたいと思いました。
- ・俳句といっても”新興”というところが小林先生のすごいところだなあと改めて思いました。是非読んでみたいと思います。
- ・俳句の世界のあらたなる一面を理解することができてよかった。文学の凝集であろう。
- ・毎回本当に楽しみに参加させてもらっています。わくわくする刺激をいただき、次回も更に楽しみになります。ブックトークの書物リスト用紙できればもう少し余白が大きいとメモがしやすく助かります。
- ・はじめて参加しました。小林先生の語り口がとても面白く、楽しく拝聴させていただきました。本の内容紹介と、自身の意見や知見とのバランスなどが自分が本について話すとしたらどうするかということを考えたとき、参考になることが多かったです。坂道シリーズのTシャツを幕間ごとに着替えられるのは、つつこんではいけないのでしょうか。次回の服装にも注目しています。
- ・ブックトークの合間にスライドを流したりと工夫されているので感心します。